



vol.8



WEB



Facebook

発行：佐賀県農産課
<http://www.pref.saga.lg.jp/list00069.html>



KARATSU TACHIBANA
代表 上野勉さん

「農業は、地域を成り立たせるためにある」 日本一のハウスミカン産地を担う若き生産者



ハウス内環境を数値化する機械
(統合環境制御に関わる機械)



統合環境制御技術で収量アップ

ハウスミカンの生産量日本一の佐賀県。今回訪れた唐津市浜玉には、手入れの行き届いたビニールハウスがずらりと並んでいます。ここで、ハウスミカンのほか加温デコポンやせとか、ハウスレモンなどの柑橘類を、10月を除き一年を通して生産・出荷しているのが KARATSU TACHIBANAの上野勉さん。栽培へのこだわりを伺うと、「統合環境制御を取り入れています」と、聞き慣れない言葉が返ってきました。

「簡単に言うと、今までの土づくり重視ではなく、植物の光合成をメインに考えるという技術。ハウスの中の温度、湿度、CO₂濃度や照度を、植物が光合成しやすい環境に整えます。それも感覚に頼らず、数値化して見えるようにするんです。今までのハウス栽培は、露地環境をハウス内で再現するという考え方でした。しかし、そもそも露地環境がミカンに最適なのかはわかりません。ハウスなら、科学的に分析された、ミカンに良い環境を作り出せるので、ハウス内環境を改善し収量増加につなげています」。

裏面へ続く・・・



佐賀市トレーニングファーム推進協議会事務局

佐賀市トレーニングファーム平成 29 年度研修生募集！

佐賀市における新規農業者を育成するため、富士町の特産物であるハウレンソウ生産に取り組むことを希望される方に、就農に向けた生産技術・農業経営等の講義や、ハウスでの実地研修を実施します。募集期間：平成 29 年 12 月 28 日（木）まで必着
問い合わせ：佐賀市トレーニングファーム推進協議会 TEL 0952-40-7118



毎日買って食べられる果物づくり

実は上野さんは、佐賀県のハウスミカン生産を支える品種の一つ「上野早生」を開発した上野壽彦さんの孫。代々の農家で、ミカンがメインになってからの3代目です。「両親は農業について否定的なことは何も言いませんでしたから、ほかの仕事に就こうと考えたこともなかったですね」。しかし継いで9年、両親とはやり方が違ってきたそう。「家族だけの農業では産地というものが守れない。一定の収量があるから付く価格も、収量が減れば下がります。今は、栽培をやめられた農地を引き受け、地域に耕作放棄地を出さないことを一番に考えています」。継いでから増えた面積は1ha。現在従業員4名、年間パート人数は400人、平成31年には法人化も決定しています。

「毎日食べて大切な栄養がとれる。そんな果物づくりをしていきたい。高級な贈答品ではなく、おいしくて、毎日買える価格の果物です」。そのためには原価を下げる。原価を下げるには収量を上げることが不可欠だと上野さん。「地産地消とよく言いますが、私は地産他消を考えています」。地域で作ったものを他所で売り、お金をもたらし地域を明るくする。「地域を成り立たせること、それが農業の目的だと思っています」。

もっと詳しいお話はwebサイトをチェック！



アンケートにお答えください！

「SAGA アグリ之星」は、サイトとフリーペーパーで、次世代の佐賀農業を担う人材をご紹介します。今回のインタビューに関する感想や、佐賀の農業への思い、また、フリーペーパーやサイトに掲載する佐賀の農業情報や、農業に従事している人について、どんなことを知りたいかなどのご要望をお寄せください。

アンケートは、「SAGA アグリ之星」サイトで、スマートフォンからもお答えいただけます。右側のQRコードからアクセスしてください！



SAGAアグリ之星
アンケートページ